

精神障がいのある方のサポート 「避難誘導の場面」より

地域には精神障がいのある方も住んでいます。災害が起きた時は誰もが不安になりますが、みんなで支え合い、避難行動を行うために、精神障がいのある方にどんなサポートが必要か、一緒に考えてみましょう

下記イラストは「**発災後に行う安否確認、避難誘導の場面**」です。家の中に居る方は、どんなことに不安を感じているのだろう？



チェック 災害時は、誰もが精神的に動揺しますが・・・

- ・災害発生という非日常的、危機的状況の中で、精神障がいのある方は特に精神的動揺が激しくなる場合があります
- ・周囲の環境変化に対応することが難しく、考えが整理できなかったり、状況の把握が難しくなることで、危険を回避することが困難な場合もあります
- ・他者との関わりが特に苦手で、情報のやり取りなど必要なコミュニケーションを取ることが難しい場合もあります
- ・障がいの症状は様々ですが、症状により心身の疲労が特に大きくなる場合もあります

ポイント

基本事項 「声をかけるときの配慮」

- ・周囲の状況や、今からどんな行動をするのかなど、伝えたい情報をご本人に「ゆっくり」「具体的」に伝える

例：「今から一緒に、歩いて〇〇体育館へ避難しましょう」

「靴を履いて、頭にヘルメットをしてください」 など

- ・必要に応じて、図やメモ、写真なども活用する

例：「避難経路を、地図で説明する」 など

ポイントを踏まえて、どんなサポートが必要か
一緒に考えてみよう



①出来る限り落ち着けるよう、声をかける

- ・出来る限りご本人が落ち着けるよう、「家は壊れていませんよ」「大丈夫です、みんな一緒ですよ。安心してくださいね」など、ゆっくりとした口調で、周囲の状況を説明してください。

②大切な説明や予定は、メモに残す

- ・メモには「説明内容」だけでなく、「記入した日時」「記入者」を記載したメモを残してください（誰と、いつ、どんな話をしたのか）。
- ・次の対応を行う時、以前伝えた説明を整理出来ずに不安になることもありますので、記録を確認することが、お互いに情報を整理し合えることに繋がります。



③薬の服薬状況の確認

- ・薬の作用や副作用で、ご本人の体調に変化が生じることがあります
- ・服薬を継続している方が、服薬を行わなかった場合も、体調に変化が生じることがあります。
- ・薬を服用している方は、必ず服用するよう確認してください（ご家族などが近くに居る場合、同伴者にも確認をしてください）。

チェック

ご本人の体調が安定している時は・・・

- ・災害時には様々な面でサポートが必要となりますが、ご本人の体調が安定している時は、ご自身で判断し、行動出来る方も居ます
- ・また、避難所運営における相互協力（炊き出しなどの手伝い、余暇活動など）も、ご本人と相談しながら行える場合もあります
- ・ご本人の良い特長を生かし、災害時に地域住民同士、助けあえる方法を一緒に考えていきましょう